



市制施行80周年を迎え、心からお慶び申し上げます。

今、日田市80年の歴史を顧みますと、戦後の混乱からの復興、産業・経済の高度成長、道路・下水道など公共施設の充実、また市民福祉の向上などを経て、平成の大合併、さらには未曾有の水害等々、波乱・激動の中を時には非常な苦しみを味わい、時には洋々たる前途に心を躍らせながら、着実に前進発展を続けてきました。

いにしえより、日田市は天領として、また、豊かな自然に恵まれた林業のまち、水郷のまちとして栄え、今なお、昔ながらの風情や文化の薫りがそこかしこに色濃く残っております。

この薫り高い文化・歴史と緑豊かな自然、さらにはそれぞれの時代を懸命に生き抜いた先人の精神を重んじながら、世代から世代へと伝え育んでいか

なければなりません。

市町村合併から15年が経過し、急激な少子高齢化の進展、高度情報化社会への対応、地球温暖化や感染症の拡大など、地方自治体を取り巻く内外の社会経済環境がますます厳しさを増す中、市民が安心して暮らすことができる、持続可能な社会づくりの取組みをいかに進めていくかが問われています。

豊かな自然と、歴史・文化・産業などの個性を生かしたまちづくりをより一層推進していくことが、私たちに課せられた命題であり、今後も市民協働の理念のもと、活力に満ちた日田市の創造に向け邁進してまいります。

結びに、日田市の限りない発展と、市民の皆様のご健勝をお祈りし、挨拶といたします。

日田市議会議長 石橋 邦彦

市制施行から80年、今日に至る輝かしい市勢の発展は、多くの先人や市民の皆様のためめ努力と情熱の賜物であり、そのご尽力に深甚なる敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

戦後、初の郷土出身市長として誕生した広瀬正雄第3代市長は、「文教と林工と観光の都市」をまちづくりの方針に掲げ、その後、歴代市政において、この目指すべき方針が着実に推進され、社会基盤の整備をはじめ、産業の発展と振興、教育・文化や福祉・医療の充実が図られてきました。

しかし、近年、我々を取り巻く情勢は、人口減少、地域経済の再生など、多くの課題を抱えており、特に、少子高齢化・人口減少問題は、国及び地方の活力の低下を招くとともに、社会保障制度の維持にも大きな影響を与えることなどから、解決すべき最重要課題となっています。

また、近年、著しい環境の変化や異常気象によって、全国各地で自然災害による甚大な被害が相次いで発生する中、本市においても、平成24年、29年の九州北部豪雨、さらには本年7月の豪雨によって大きな被害を受けたところであり、今後の災害に備えた防災対策も喫緊の課題となっています。

こうした状況を踏まえ、これからも「市民協働のまちづくり」を基本に、災害からの復旧と復興を速やか、かつ、着実に進めるとともに、情勢に応じた新たな施策を取り込み、未来を見据えた、持続可能な「日田市の創生」に取り組んでまいります。

今後とも、皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸を祈念し、挨拶といたします。

日田市長 原田 啓介



1 | 特集 日田市 市制80周年記念

市制80周年を迎えて



昭和15年12月11日、日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田村の1町6か村が合併し、日田市が誕生しました。

あれから80年。今号では、これまでの日田市の足跡をたどる「80年のあゆみ」を紹介します。

☎総務課秘書係 ☎8200 (市役所4階)